

情報サービス産業の最新動向をテーマに 情報科学研究所シンポジウム



▲講演する富田和夫氏

情報サービス産業の最新動向をテーマとした情報科学研究所主催のシンポジウム(講演会)が12月11日、生田キャンパスで行われ、経営学部、ネットワーク情報学部の学生ら約330人が聴講した。

講師の菱友計算(株)人材開発グループ採用担当部長の富田和夫氏は、豊富なデータによる統計グラフを示しながら、最新の動向と求人状況などを解説。今後、地域的にはインド、中

国などアジア圏が発展、分野としてはウェブコンテンツ系の需要が増大していくが、現状では経験を積んだ高度なエンジニアが不足しており、ITアーキテクト、カスタマサービス分野のエンジニアが必要とされていくと、これから就職活動を始める学生たちを激励した。

【ニュース専修1月号4面】

総合的に「アジア法」を研究 神田キャンパスで設立総会



▲設立総会であいさつする安田信之代表理事

わが国で初めての総合的なアジア法研究を目的とする『アジア法学会』11月29日、神田キャンパスで、開催された。

まず、開催校を代表して内藤光博法学部助教授が「アジア法の関心が高まりつつある中、わが国初のアジア法学会設立総会が本学で開催されることを光栄に思います」とあいさつした後、学会代表理事の安田信之名古屋大学大学院国際開発研究科教授が、「21世紀に入りグローバル化が進行する中、アジア法の学術

的研究をさらに推進することが緊急の課題である」と述べ、アジア法学会設立を宣言。続いて、「アジア法研究の課題—アジア法学会設立によせて」と題するシンポジウムが行われ、活発な議論が交わされた。

【ニュース専修1月号4面】

英語の学習10人10話 第8話「英語」を超えて 成田雅彦(経営学部教授)

「英語ができるようになりたい」。現代の日本人で、こう思う人は多いだろう。しかし、なぜ英語ができるようになりたいの？と問われて、すぐ明確な理由を挙げられる人はまれである。確かに英語ができれば便利そう。就職だって有利かもしれない。外国人と友達になり、留学だってできる。第一、こんな国際化社会では、英語はMustではないか。



けれども、はっきり言おう。もし、あなたが漠然と世の風潮に従って英語ができるようになりたいのなら、あなたは英語ができるようにはならない。英語に限らずなんでもそうだが、僕らが努力するのは、何かの目標を達成するためである。明確な目標なしに努力が続けられるわけがない。洋楽が死ぬほど好きな人は、なんとかその歌詞を理解したいと思うだろう。映画が好きな人も、小説が好きな人もそう。海外でプレゼンする必要がある人は、必死で原稿を準備するはずだ。留学希望者もそのとおりである。強烈な思い入れがあれば、人はたいていのはやるものだ。

この年明けに、自分にとって英語は何故必要なのか考えてみよう。そして、それが見つかったら、目標達成のために死にもの狂いで勉強してほしい。映画、歌、何でもいい。自分に合ったテキストを一冊定め、それを細かく調べて理解した後、全編500回ほど大きな声で音読すればいいのである。

英語は、長期の継続的な学習が必要で……などという人がいる。違う。英語は短期科目だ。シュリーマンはろくな教育も受けなかったが、外国語は6ヶ月あればマスターできると言った。古代の遺跡調査には外国語がどうしても必要だったからである。英語は道具である。その向こう側の夢へといたる手段にすぎない。

【ニュース専修1月号4面】